

抄 録

京都府宮津市木子・駒倉に於ける
生活実態調査について

山本キヨ・野村治子・北島洋子

両地区はいずれも丹後半島の中部山地に位置し、交通不便な典型的僻地農山村と考えられるのでこの調査を行った。

調査は、昭和39年7月22日より1週間行つた。

両地区は各々30並びに15世帯よりなり近年、生産年齢層の流出が目立ち、人口は老人及び幼児が多く、いづれも無医、無助産婦山村である。冬季豪雪のため、住宅は四季を通じて雪囲いで覆われ、家屋内の照度は低く、湿度も高い。飲料水は、水田灌漑水、井水、流水等を使用し、大腸菌群の検出率が高く非衛生的である。食生活の水準は低く、農村一般に見られる穀類、特に米食の過剰による熱量摂取量が非常に多く、動物性蛋白質及び脂肪の摂取量が非常に少い。

以上の如き環境衛生の不備、栄養不良及び過重労働の結果、有症者が多く主としてビタミンB₁欠乏症、高血圧症ついで神経痛、腰痛が目立ち、又寄生虫保有率も高い。

(日本家政学会関西支部研究発表会1965年5月29日)

電気掃除機の性能に関する基礎的研究
2. 真空度の風量に及ぼす影響について

東 修三・山岡 道子

電気掃除機の集塵量が増加すると共に、その風量は減少し、真空度は逆に増大する事は周知の実験事実である。この場合、真空度の増大が風量の減少の仕方に如何に影響するかを定量的に検出する1方法として、集塵量0, 20, …… , 200 g等(塵材料クレンザー)の各場合の風量・真空度曲線群から、真空度一定と仮定した場合の風量・集塵量曲線を求め、実際のもので対比する方法を提案し、この方法による解析結果を報告した。

(日本家政学会関西支部研究発表会1964年11月28日)

不快指数の定義について

東 修三

不快指数(DI)は実効温度の近似表現で、冷房度日計算のための温度表示として元来使用されたものであるが、最近では夏季の保健ならびに冷房調節用の体感温度表示に転用されている事は周知である。筆者は、これを冬季の暖房調節用にも使用する事の有用性を痛感し、そのため、まず、低温域での不快指数の実効温度に対する近似度を調べ、更に、日本人に対する不快指数又は実効温度と体感との関係についての調査を検討した結果にもとずいて、不快指数の定義を新たにDI-70とする事を提案した。

(日本気象学会大会1965年5月13日)